学校だより 9月号
令和6年8月27日
多摩市立西落合小学校
校 長　久 保　明 彦

負けから学べること

校長　　久 保　明 彦

早いもので、長い夏休みも終わり、元気な子どもたちの声が西落合小学校に戻ってきました。今年の夏は、猛暑の連続で保護者の皆様も子どもたちの体調管理が大変だったことと思います。今のところ、夏休み期間中の大きな事故やケガの報告もなく、無事に前期後半のスタートを切ることができました。保護者や地域の皆様が子どもたちを温かく見守ってくださったお陰です。心より感謝申し上げます。

さて、今年の夏休みは「パリ・オリンピック」が開催されました。連日、日本人選手の活躍に胸躍らせ、視聴する我々に夢と希望を与えてくれました。一人ひとりの選手にそれぞれのドラマがあり、勝利に輝く笑顔や、敗北に悔し涙を流す姿に心を動かされました。自分が選手の親や友人だったら、負けたときにどう声をかけるだろうと思いながら、負けることについて考えました。その際に相田みつをさんのある詩を思い出しました。「受け身 負ける練習」という詩です。柔道の受け身を通して、負けることについて書かれています。多くの示唆に富んだ内容なので、ご紹介いたします。

受け身　負ける練習　　相田みつを

柔道の基本は受身
受身とは投げ飛ばされる練習
人の前で叩きつけられる練習
人の前でころぶ練習
人の前で負ける練習です。
つまり、人の前で失敗をしたり
恥をさらす練習です。
（中略）
長い人生には
カッコよく勝つことよりも
ぶざまに負けたり
だらしなく恥をさらすことのほうが
はるかに多いからです。
（中略）
若者よ失敗を気にするな
負けるときにはさらりと負けるがいい
口惜しいときには「こんちくしょう！」と、
正直に叫ぶがいい
弁解なんか一切するな
泣きたいときには思いきり泣くがいい
やせ我慢などすることはない
（中略）
若者よ頭と体のやわらかいうちに
受身をうんと習っておけ
受身さえ身につけておけば
何回失敗しても
すぐ立ち直ることができるから・・
（中略）
そして負け方や受身の
ほんとうに身についた人間が
世の中の悲しみや苦しみに耐えて
ひと（他人）の胸の痛みを
心の底から理解できる
やさしい暖かい人間になれるんです。
（後略）

相田さんは、短い言葉の中に人の心の奥まで染み渡る温かみのある詩を独特の文字で表現される方です。この詩は比較的長いですが、読み返してみると、改めて子どもたちには、「負け」や「失敗」も含めたあらゆる経験を通して、多くのことを学んで成長してほしいと感じました。前期後半も、子どもたちが笑顔で登校し、笑顔で下校できるよう教職員一同努めてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。